

県内総合

建設情報

陸前高田市

明和土木・金野建設JVが落札

沼田の突堤・防砂堤工事

陸前高田市は19日、条件付一般競争により「脇之沢漁港（沼田地区）突堤・防砂堤工事」を4者で入札した結果、明和土木・金野建

設JVが7400万円で落札した。工期は、2026年2月16日までとなっている。（関連6面）

入札には、同JVとかねまつ建設・菊池組JV、佐賀・高田経常建設JV、橋野潜建が参加。最低制限価格は7106万9000円だった。工事場所は、同市米崎町字沼田地先。

工事概要は、脇之沢漁港（沼田地区）の東端に、防砂堤延長27mと突堤同10mを新設するもの。設計は、セン



防砂堤などが整備される脇之沢漁港

ニュースのお知らせ

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33

本社編集部へ

TEL (019) 623-8201

FAX (019) 623-8204

ク21が担当した。

沼田地区は、高波の影響を受け砂もたまりやすいことから、防砂堤と突堤を整備することで砂の流入を抑え、静穏度の向上を図る計画としている。

トイレ設計を今月に指名入札

＝一関市＝

前堀の多目的グラウンド

一関市は、前堀地区の多目的グラウンドの整備に関して、造成工事と敷地内に整備を見込むトイレの設計を今年度計画する。このうち、トイレの設計は今月、指名競争で委託業者を選定する予定でいる。

多目的グラウンドは、一関サッカー・ラグビー場と主要地方道一関大東線を挟んでの向かい側の辺りとなる中里字川原地内ほかを整

備を計画する。約9900平方mを確保し、多目的グラウンド、駐車場、トイレを整備する。

このうち、多目的グラウンドは約7500平方mで、サッカー1面、学童の軟式野球やソフトボール2面分を確保できる程度の広さで、さまざまなスポーツでの活用を構想する。駐車場は、普通車19台程度、中型バス2台程度が駐車できるスペースを見込む。

トイレに関しては、木造か鉄骨造を見込み、42平方m程度の広さを想定。今回委託する設計業務は、186日間の委託期間となっている。

多目的グラウンドの整備予定地の近隣には、一関サッカー・ラグビー場がある。一関サッカー・ラグビー場は、2014年にオープンした人工芝グラウンドで、照明設備を備えるほか、クラブハウスなどが設けられている。オープン以来、さまざまな競技に利用され、高い利用率となっている。さらなるスポーツ環境の充実のため、多目的グラウンドの整備を計画する。

スケジュールを見ると、26年10月からの供用に向けて、今年度は敷地造成工事とトイレ実施設計な

ど、26年度にトイレの建設工事の発注などを計画する。なお、敷地造成は7月に制限付一般競争で公告された。

26年10月の供用時は、一関小のグラウンドとして利用する。一関小については、校舎や屋内運動場などの改築が計画され、現在の校庭の位置に新施設を建設予定で、施工中は校庭を利用してきなくなることから、多目的グラウンドを同校の代替グラウンドとして一時的に利用する。同校の仮設グラウンドとしての利用は、29年度までを見込む。

浴室設置改修など3件に分けて公告

＝県警察・早池峰寮＝

県警察は18日付で、一般競争の岩手県警察学校早池峰寮改修工事を建築と電気設備、機械設備の3件に分けて公告した。入札・開札は9月11日を予定している。

今回の工事は、盛岡市青山一丁目24番の県警察学校（敷地2万4728.57平方m）の早池峰寮（鉄骨造2階建て延べ911.51平方m）内

を改修する予定。具体的には、同僚1階の教場と1・2階の便所、1階の洗面所、2階の情報教育室の改修に伴う建築と電気設備、機械設備の各工事を実施する。工期は170日間となっている。

電気設備の工事種目は電灯設備や動力設備、受変電設備、拡声設備、テレビ共同受信設備、火災報知設備、構内配電線路。機械設備の工事種目は屋内外の空調設備、屋内外の換気設備、屋内の衛生器具設備、屋内外の給水・排水・給湯設備、屋外のカス設備、屋内外の撤去工事など。

それぞれの入札参加資格を見ると、建築が2025・26年度の内閣府競争入札参加資格有資格者名簿における「建築一式」のA、B、C、Dの等級に格付けされている者など。電気設備が2025・26年度の内閣府競争入札参加資格有資格者名簿における「電気」のA、B、C、Dの等級に格付けされている者など。

機械設備が2025・26年度の内閣府競争入札参加資格有資格者名簿における「管」のA、B、C、Dの等級に格付けされている者などとなっている。

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

2025年7月30日にカムチャツカで発生したM8.8の地震の概要

岩手大学理工学部システム創成工学科准教授

山本 英和

2025年7月30日、ロシア、カムチャツカ半島付近で巨大地震が発生、大津波も発生し、日本にも津波が到達することになった。気象庁によると、地震の発生時刻は7月30日8時25分頃、マグニチュードは当初8.0から8.7に修正、発生場所はカムチャツカ半島付近とした（気象庁、令和7年7月30日08時25分頃のカムチャツカ半島付近の地震について、第1報）。その後マグニチュードは8.8に修正された（気象庁、令和7年7月の地震活動および火山活動について）。これを受けて気象庁は、9時37分津波注意報、9時40分津波警報を発表した。津波警報の範囲は北海道から和歌山県に至る。岩手県では、災害特別警戒本部を設置し、津波警報に伴い災害対策本部を設置し、対応した。岩手県内の沿岸各自治体はただちに避難指示を発令した（岩手県、令和7年7月30日（水）9時40分頃の津波警報発表に伴う対応状況（第1報）による）。津波の第1波は早い観測点では10時過ぎには観測され始めた（気象庁、第2報）。岩手県久慈港で30日13時52分に、最大の高さ1.3mの津波を観測した（同第3報）。仙台港で0.9m、八戸港で0.8mの高さの津波を観測した（同第4報）。その後、久慈港の最大高さは1.4mに修正された。

規模の大きな地震で遠地の津波のため、北海道東北地方だけでなく、関東、東海地方まで津波警報が出されたため、都市の交通マヒだけでなく、夏休み

の観光地に対しても混乱状態を引き起こすこととなった。さらに、この津波では、避難指示が解除されるのに時間を有する規模の大きな遠地津波の避難に対して、酷暑の中でどのように対応すべきか問題となった。いままで冬季の極寒期での津波避難は以前から指摘された問題であったが、酷暑の中の避難は今回初めて指摘された問題である。

アメリカ地質調査所（USGS）では、この地震のテクトニックの概要をホームページで紹介している。以下にその概要を紹介する。

アメリカ時間の2025年7月29日、ロシアのペトロパブロフスク・カムチャツカ東方で発生したM8.8の地震は、浅い逆断層運動によって発生した。この地震の震源地周辺では、太平洋プレートが北米プレートに対して西北西方向に年間約80mmの速度で移動している。地震の震源地と地震の断層運動方向は、千島・カムチャツカ弧の沈み込み帯プレート境界における断層運動と一致している。この規模の地震は、（地図上では、通常、点としてプロットされるが）、より広範な断層領域における滑りとして説明する方が適切である。この地震の逆断層運動は、長さ約390km×幅140kmの範囲である。

この地震は、2011年に発生した東北地方太平洋沖地震（M9.0）以来、世界的に発生した最大クラスの地震のひとつであり、1900年以降に発生した世界

最大の地震の中でも上位10位に数えられる。この地震は、カムチャツカ半島沖で10日前から発生している一連の地震のうち、最新のものである。この地域では、今回の地震に先立って、2025年7月20日のM7.4の地震を含むM5.0以上の地震が50回発生し、そしてM6.6の地震が3回発生している。2025年7月30日午前4時（UTC世界標準時）時点で、M6.9およびM6.3の地震を含むM5.0以上の余震が24回発生している。

これらの地震は、太平洋プレートが北アメリカプレートの下に北西方向に沈み込む、地震活動が活発な千島・カムチャツカ沈み込み帯で発生した。この沈み込み帯（千島・カムチャツカ海溝）の表層は、千島列島とカムチャツカ半島の東側に位置している。この地域では、太平洋プレートが年間約80mmの速度で北西方向に移動しており、世界で最も速い収束線の一つとなっている。カムチャツカ半島沖のこの地域では、1990年以降、M5.0以上の地震が約700回発生している（今回の地震とその余震は除く）。この沈み込み帯の北部では、過去約100年間に2回の非常に大きな地震が発生している。1923年には、マグニチュード8.4の地震が発生し、沈み込み帯の境界面を破壊したと推定されている。この地震は、2025年の震源地から北に150kmの地点で発生した。カムチャツカ半島の沈み込み帯で記録された最大の地震は、1952年に発生したマグニチュード9.0の地震である。1952年の震源地は今回の地震の震源地から30km以内に位置し、1952年の地震は、沈み込み帯の境界面を南西方向に600km破壊した。この地域は、1952年以来、年間80mmのプレート運動を約6m消費してきた。2025年の地震は、1923年の断層運動と1952年の断層運動の間の小さな空白をほぼ埋めたように見える。

以上がアメリカ地質調査所による概要である。詳しくは、参考サイトに示すカムチャツカ地震のサイトを参照されたい。揺れのマップ、地震のメカニズム解、断層すべり量解析などが詳細に記述されている。

また、地震の発生場所の周辺のカムチャツカ半島にあるクラシェニンニコフ山が2025年8月3日に噴火した（地元の火山観測当局発表）。ロシア通信によると、約600年ぶりの噴火で、7月30日に起きた地震と関連した噴火の可能性があるという。非常事態省によると、クラシェニンニコフ山では噴煙が上空6kmに到達した。山から東方向の太平洋方面に広がり、噴煙の方向に集落はないという。カムチャツカ半島では地震当日の7月30日にも、クリュチェフスカヤ山で噴火が起き、巨大地震との関連が指摘されている。タス通信によると、クリュチェフスカヤ山はユーラシア大陸で最も標高の高い活火山である（共同通信（8/3配信）による）。

カムチャツカ半島では、1952年の地震の後、ベズイミアニ火山が3年後に噴火している。世界では、マグニチュード9クラスの地震（チリ地震、スマトラ島沖地震など）が発生した直後には周辺の火山が噴火する事例が多々観測されている。ちなみに、マグニチュード9クラスの地震の後に噴火が観測されていない事例は東北地方太平洋沖地震のみである。（注意1）地震のマグニチュードは、気象庁は8.7、アメリカ地質調査所は8.8と推定されている。機関が異なれば、データ、推定方法が異なるため違った値を示すことも多い。

（注意2）アメリカ地質調査所の報告ではモーメントマグニチュード（Mw）が使用されているが、本記事ではMと記述している。

（参考サイト）気象庁HP、岩手県HPほか
アメリカ地質調査所（USGS）、Earthquake Hazards Program、M8.8－2025 Kamchatka Peninsula, Russia Earthquake
<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/eventpage/us6000qw60/executive>

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

2025年度 各種講習・教育のご案内 8月～1月予定表

8月	9月	10月	11月	12月	1月
1	1 床上操作式クレーン運転技能講習 (1・2・3)	1 高所作業車運転技能講習 (1・2 1・3)	1	1	1
2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4
5	5	5	5 玉掛け技能講習 (4・5・6 4・5・7)	5	5
6	6	6	6	6	6
7	7	7 車両系建設機械運転技能講習(整地等) (6・7・8 6・7・9)	7	7	7 玉掛け技能講習 (6・7・8 6・7・9)
8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9
10	10 玉掛け技能講習 (9・10・11 9・10・12)	10 テーラードリフター特別教育 (10・10・14(AM))	10	10	10
11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31

学科2日 実技1日	学科1日 実技1日	学科1日 実技3日	クレーン運転特別教育
床上操作式クレーン運転技能講習 つり上げ荷重が5トン以上の床上操作式クレーンを運転する方に必要な資格です。（運転する者が荷の移動とともに移動するクレーン）	高所作業車運転技能講習 作業床の高さが10m以上の高所作業車（トラック式、ホイール式、クローラ式）を運転する方に必要な資格です。	フォークリフト運転技能講習 最大荷重が1トン以上のフォークリフトの運転の業務に就く方に必要な資格です。（道路上を走行させる運転を除く）	玉掛け技能講習 つり上げ荷重が1トン以上のクレーン、移動式クレーン、デリックまたは、制限荷重が1トン以上の揚貨装置、などの玉掛けの業務に就く方に必要な資格です。
			
小型移動式クレーン運転技能講習 つり上げ荷重が1トン以上5トン未満の移動式クレーンを運転する方に必要な資格です。			車両系建設機械運転技能講習(整地等) 機体重量（ブーム・アーム・バケットを除く本体のみの重量）3トン以上の車両系建設機械を操作できる資格です。
			
			高所作業車運転特別教育 (作業床の高さが10m未満の高所作業車の運転に必要)
			車両系建設機械(ローラー)運転業務特別教育
			フルハーネス型墜落制止器具の特別教育
			刈払機取扱作業安全衛生教育
			移動式クレーン定期自主検査者安全教育
			天井クレーン定期自主検査者安全教育
			移動式クレーン運転士安全教育
年間予定表及び案内書をご希望の方は、ご連絡下さい。また、出張講習も随時ご相談下さい。			
詳細のお問い合わせ先は…			
公益社団法人 ボイラ・クレーン安全協会 岩手事務所			
〒028-3621 紫波郡矢野町広宮沢11-507-8			
☎019)614-9711 FAX (019)614-9712			
URL http://www.bcsa.or.jp E-mail iwate@bcsa.or.jp			